

障害者差別に関する相談事例について（2）

< 事 例 >

相談者	スポーツ大会運営者
相談内容	<p>< 不当な差別的取扱いに関する相談 ></p> <p>相談者は、市内でスポーツ大会を運営している責任者。先日、障害者差別に該当する可能性がある事案が発生したため相談に至る。</p> <p>大会を開催していたスポーツ施設において、大会関係者用の駐車場を無断で利用している車両を発見。駐車場管理を担当していたボランティアが、大会関係者であるかを確認したところ、「そうではない」と回答されたため、駐車場の利用はできない旨伝え、退場させた。</p> <p>後日、その方から、自身がストーマがある身体障害者であった旨の電話連絡があり「自分は施設内のストーマ用設備のあるトイレを借りたかっただけなのに追い返すのは差別に値する」との申し出があった。</p>
対 応	<p>< 当事者への事実確認 ></p> <p>当事者である障害者の方に対してヒアリングを行って行く中で、駐車場管理のボランティアには、自身が障害者である旨を伝えていなかったことが判明。</p> <p>合理的配慮の提供を受けるためには、自身が障害者であることと必要な配慮を申し出る必要がある旨を説明すると、障害者の方より「たしかに、自分がストーマのある障害者であることを伝え、施設のストーマ用設備のあるトイレを利用するために一時的に駐車場を利用したいと言えば、また、違った対応があったかもしれないが、駐車場を管理していた人物は非常に態度が悪かった。大会関係者かどうかだけを聞かれ、違いますと答えた瞬間にすぐ出ていけと言われた。このような対応をされて、怒りを覚えたため、トイレを利用したいことすら伝えることができず、出ていくこととなった」と述べた。</p> <p>スポーツ大会運営者にその旨を報告すると「大会の運営上、防犯管理を徹底する必要があったため、細やかな聞き取りが欠けていたのかもしれない。障害者の方に連絡し謝罪する」とのことであった。</p> <p>⇒結果、両者和解。スポーツ大会運営者に対しては、当課より障害者差別解消法の概要について説明し、普及啓発に努めた。</p>